

2022年5月22日

## 子牛増体に薬草カンゾウ 福井畜試が実証 食いつき向上、哺乳期の下痢防ぐ

| ニュース | 営農技術

Twitter

Facebook

Line

Mail

福井県畜産試験場は、和牛子牛に薬草のカンゾウ（甘草）を食べさせることで、餌の摂取量が増えることを明らかにした。飼料摂取量は最大で3割上回った時期もあり、160日齢での体重も11%増加。離乳まで1頭につき1500円ほどで下痢も予防できることから、経費削減にもつながる。

試験では、朝夕2回、1回につき2グラムをミルクに混ぜて給与した。期間は離乳までの20～40、70～90日齢。濃厚飼料と粗飼料はいつでも食べられるようにした。

カンゾウを与えると、無給与区よりも濃厚飼料の食いつきが良くなった。飼料の摂取量では、40日齢から無給与区を上回った。70～85日齢では2、3割多かった。160日齢での体重は、カンゾウ区で200キロ、無給与区で174キロだった。

試験場は、糖が体を大きくする成長ホルモンの分泌を促すことで、その分、餌の摂取量も増えると分析。免疫機能を活性化する細菌も増えたことから、下痢や肺炎による低栄養状態を防ぐ効果もあるとみる。研究をまとめた川森庸博主任研究員は「下痢を予防しながら順調な生育を促せることが、体重増加につながるのではないか」とする。

子牛は哺乳期に下痢を起こしやすく、治療費がかさんだり死亡に至ったりと、経営上の損失は大きい。カンゾウ粉末は1キロ当たり7150円ほどで購入でき、子牛1頭につき1144円ほど（4グラムを計40日給与）の低コストで取り入れられる。溶けやすく甘味があるため、子牛が嫌がらない。

### 哺乳期の飼料摂取量の推移

